

第13回 平成28年（2016年）熊本地震に関する  
非常災害対策本部会議

平成28年4月25日 16:50  
3号館4階幹部会議室

議事次第

1. 土井副大臣からの報告

土井副大臣

## 平成28年熊本地震についての国土交通省の対応状況

**国土交通省の主な対応状況**

## (1) 住環境

**■二次的避難所の確保**

- ・全旅連等に九州全域の旅館・ホテルへの被災者の受入れを要請。全旅連は、他県の宿泊施設についても、熊本県からの要請があり次第、受入用意あり。
- ・保健師が各避難所で聴取した利用希望をもとに、熊本県及び全旅連熊本県支部において、高齢者や体調の悪い方等を中心に順次受入中。  
※4/25 現在 53名の受入が決定済み(4/25以降に旅館等へ移動予定者を含む)
- ・八代港での民間フェリー「はくおう」による入浴、食事、宿泊サービスを4月23日から開始。第1回の利用者174名。第2回の利用者受入れ中。

**■応急的な住まいの確保等**

- ・熊本県では、判定士を増員して被災建築物の応急危険度判定を実施中。  
益城町(ましきまち)及び菊陽町(きくようまち)では当初予定分を昨日までに完了。  
8市町村で、18,142件実施(4/24現在)
- ・公営住宅等の受付開始等の状況 合計8,659戸
  - (1)熊本県内では、熊本県及び熊本市をはじめ、計434戸を確保。荒尾(あらお)市営住宅等において44戸入居決定済(4/22集計分)
    - ( ・熊本県：70戸程度 4/21受付開始
    - ( ・熊本市：250戸程度 4/23受付開始 入居開始予定日はいずれも5/6 )
  - (2)熊本県を含む九州各県では、3,108戸(うちUR住宅367戸)を確保。  
192戸入居決定済み(4/22集計分)
  - (3)九州以外の都道府県で被災者がすぐにでも入居可能な状態の公営住宅等を計5,551戸確保(4/21集計分)。一部の地方公共団体で受付開始。

- ・ 応急仮設住宅の建設について、熊本県は、西原村(にしはらむら)の建設候補地 5 箇所を確認。また、県優良住宅協会において約 100 戸、プレハブ建築協会において約 2,900 戸、工事に着手する準備があることを確認。
- ・ 応急仮設住宅の建設業務支援のため、地方公共団体等職員を派遣。
  - ・ 第 1 陣として UR、岩手県、宮城県、福島県の職員 8 名を熊本県庁へ派遣(4/25)、今後増員。

## ■飲料水等の確保

- ・ 飲料水等
  - ・ 海洋環境整備船等 3 隻および巡視船 6 隻により、熊本港等にて給水中(飲料水)
  - ・ (独)水資源機構が山都町(やまとちょう)に派遣した可搬式浄水装置を稼働中
- ・ 入浴・トイレ提供等(巡視船 6 隻、大型油回収船 1 隻)
- ・ 熊本市に生活物資を搬送(巡視船)
- ・ 下水処理場は処理機能を確保。下水管は全国の応援を得て概略点検をほぼ終了し流下機能はほぼ確保済み。今後、詳細調査の予定。また、仮設トイレのし尿は熊本県、熊本市の処理場で受入中。

## (2) 物流

- ・ 幹線物流：プッシュ型の支援物資の搬入体制(トラック、鉄道等)を確保
- ・ フィーダー物流：自衛隊や物流事業者が、食料や飲料水その他の品目を、鳥栖や福岡久山等の物流拠点から被災市町村まで輸送。
- ・ 人的支援：物流事業者の専門家を非常災害対策本部、熊本県庁等に派遣

<参考：営業用トラック輸送の手配実績(25日15時現在)>

幹線物流(プッシュ型)	: 82 件
幹線物流(プル型 被災自治体から国に依頼があったもの)	: 17 件
その他(熊本県・熊本市から同県トラック協会に依頼があったもの)	: 87 件

### (3) 交通

#### ■道路関係

##### ○復旧の見込みと現状

##### 【高速道路】(3路線 75km 通行止め)

##### 九州自動車道 植木(うえき)IC～八代(やつしろ)IC (56km)

- ・ 今月中に九州道全線を一般開放予定。九州を南北に連絡する大動脈を回復
- ・ 植木 IC～益城(ましき)熊本空港 IC(19km)
  - ※物資輸送車両・高速バス通行可
- ・ 益城熊本空港 IC～嘉島(かしま)JCT(4km)
  - ※応急復旧後片側1車線で一般開放予定
  - ※益城バスストップ付近 崩落した盛土を復旧中
  - ※木山川(きやまがわ)渡河部 橋桁ずれ 橋梁を支えるベント設備を設置中
- ・ 嘉島 JCT～八代 IC(33km)
  - ※今週前半に一般開放予定

##### 大分自動車道 湯布院(ゆふいん)IC～日出(ひじ)JCT (17km)

※高所橋梁部で桁及び支承損傷調査中・応急対策の内容精査中及び準備作業中

##### 【国道】

##### 阿蘇大橋地区斜面崩壊(国道57号・国道325号)

※無人施工機械により、土砂撤去用進入路を整備中

○広域的な対策調整の場(整備局、県、市、警察等)を設置し、利用ICの誘導による熊本市内への流入分散の対策等を実施

#### ■鉄道関係

##### ○運転休止

- ・ 新幹線 九州新幹線 運休区間：熊本駅～新水俣駅

※熊本駅～熊本車両基地間(本線上)回送列車1本 全車脱線

脱線車両6両すべてを車両基地へ移送済み

※熊本駅～新八代駅間で施設の応急復旧工事を実施中。

※応急復旧工事が順調に進めば、試験走行を経て、数日中に全線で運転再開見込み。

- ・ 在来線 2事業者2路線(運転休止)

・ JR九州 豊肥線 ・ 南阿蘇鉄道 全線(1路線)

## ■空港関係

- ・熊本空港：ターミナルビルは5つの搭乗口のうち4つを運用中。現在、旅客便は通常の約7割(50便程度)運航中。また24時間運用し救援業務に対応、自衛隊等が利用。
- ・九州の他の空港：通常どおり運用中。福岡－鹿児島間等に臨時便を運航

## ■バス

- ・九州の高速バスは運休した路線のうち、約8割が運行再開(25日15時現在)。熊本市内の主要路線バスは概ね運行再開。

### (4) 土砂災害 23日からの雨による新たな土砂災害の報告なし

- ・重点箇所(阿蘇大橋地区、火の鳥温泉地区、高野台地区、立野川、山王谷川)
  - ・阿蘇大橋地区：斜面对策について県と調整。捜索活動の二次災害防止支援
  - ・山王谷川他：県が家屋被害拡大防止のため、応急対策を実施中。流路の排水機能回復(山王谷川)、人家上流土嚢積(立野川)が完了。
- ・緊急度の高い危険箇所約1100箇所に対し、TEC-FORCEにより点検(約950箇所完了)し、県及び市町村へ情報提供、助言(実施中)
- ・土砂災害による二次災害防止
  - ・要請に応じ西原村、南阿蘇村等の自治体へ助言(4/22土砂災害対策アドバイザー班設置)
  - ・ツイッター等による注意喚起

## 市町村支援等

### ○TEC-FORCE のべ3,717(25日現在405名)

自治体所管施設の被災状況調査を代行。激甚災害指定に係る所要期間の短縮に貢献。

### ○リエゾン のべ566名(25日現在59名)

- ・熊本県庁9、熊本市2、益城町4、御船町2、嘉島町2、西原村2、南阿蘇村4、菊池市2、宇土市4、大津町2、阿蘇市2、高森町2、菊陽町2、甲佐町2、大分県庁4、熊本現対本部6、陸自2、八代港6

### ○照明車、対策本部車、衛星通信車等 81台 ※24日81台

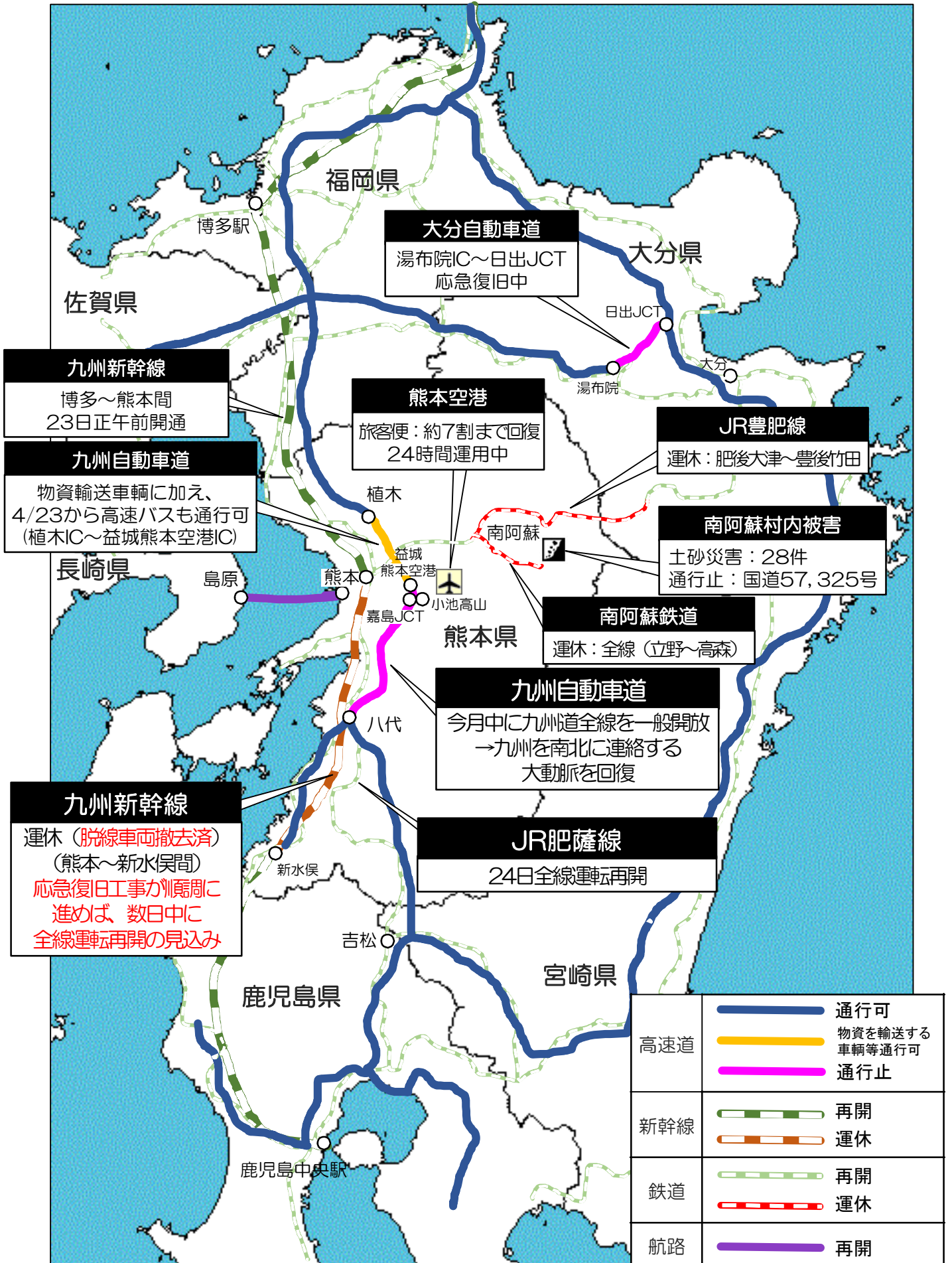
### ○海洋環境整備船及び海上保安庁巡視船等 93隻・日※熊本、八代等5港

### ○今回の災害で発生した土砂・瓦礫(がれき)等の処分に係る熊本港の活用について、熊本県等と調整開始

# 熊本地方を震源とする地震について

国土交通省関連

※4/25 15:00現在





# 被災者に対する避難所・住まい提供の流れ

## I. 避難所の確保

### ①一次避難所

- ・学校、公民館などの公的施設

### ②二次避難所

#### (1) 宿泊施設

53名の受入決定済  
(4/25現在)

#### (2) 船舶 174名受入(4/23)

### 被災建築物 応急危険度判定 の実施(4/15～)

8市町村、18,142件実施  
(4/24現在)

※益城町、菊陽町では当初  
予定分を完了

・判定士  
4/23～:600人体制

自宅の損傷が軽微な場合は、地域のライフラインの復旧後、帰宅

## II. 応急的な住まいの確保

### ①公営住宅等の空室提供 (4/22集計分)

・熊本県 : 70戸 4/21受付開始  
・熊本市 : 250戸 4/23受付開始  
・その他市町 : 114戸 (うち入居決定44戸)  
⇒ 熊本県内計 : 434戸 (うち入居決定44戸)

・U R : 367戸 (うち入居決定 0戸)  
・熊本県以外の九州各県 : 2,307戸 (うち入居決定148戸)  
⇒ 九州全体計 : 3,108戸 (うち入居決定192戸)

・九州以外の都道府県 : 5,551戸  
⇒ 全国計 : 8,659戸

### ②民間賃貸住宅の空室提供 (みなし仮設)

4/21 県から不動産業界団体に住宅提供等の協力要請  
※県内の民間賃貸住宅の空き家(発災前1,500戸程度)について損傷確認中。提供可能な物件リスト(第1次)を熊本県・熊本市へ報告予定(4/25)  
※不動産業界団体が無料電話相談窓口を開設(4/25～)

### ③応急仮設住宅の建設

県と県優良住宅協会、プレハブ建築協会が協議開始  
4/22 県は西原村の建設候補地5カ所を確認  
県優良住宅協会約100戸、プレ協約2,900戸の工事着手準備を確認  
4/25 UR、岩手県、宮城県、福島県から8名派遣開始、今後増員

## III. 恒久的な 住まいの確保

- ・自力での再建・補修等を支援

### ①被災者生活再建 支援金制度

### ②住宅金融支援機構の災害復興住宅融資制度

・電話相談(4/15～)

### ③再建・補修等の 相談体制の整備

・電話相談(4/26～)  
・専門家の派遣(4/29～)

自力での再建等が困難な被災者への公営住宅の整備